

第2次都立動物園マスタープラン  
大島公園動物園 推進計画

---

令和5年3月  
東京都建設局  
東京都環境局

# 目次

## 1. 推進計画について

- (1) 推進計画策定の考え方
- (2) 計画の見直しについて

## 2. 大島公園動物園について

## 3. 各園基本方針

- (1) 園の取組の方向
- (2) 目指す姿ごとの方針

## 4. 飼育展示計画

- (1) 飼育展示計画とは
- (2) 飼育展示計画におけるエリア区分と飼育動物の分類
  - 1) 飼育展示計画におけるエリア区分の設定
  - 2) 飼育動物の分類
- (3) 園の飼育展示コンセプト
- (4) エリアごとの計画 ～展示コンセプト・飼育動物・重点的取組～

## 5. 教育普及計画

- (1) 教育普及計画とは
- (2) 教育普及テーマについて
- (3) 園の飼育展示コンセプト
- (4) 教育普及テーマごとの計画 ～取組計画・主な実施項目～

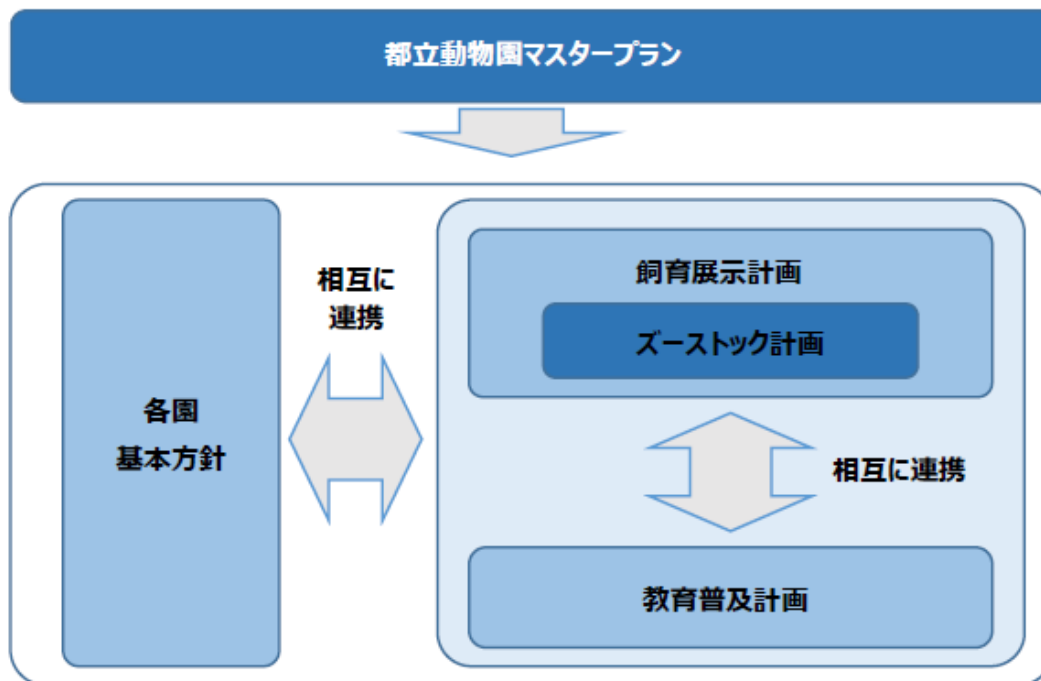
## 1. 推進計画について

### (1) 推進計画策定の考え方

都は「動物園・水族館の持つ4つの機能を強化していくこと」と「持続可能な開発目標(SDGs : Sustainable Development Goals)の達成に寄与すること」という2つの基本的な考え方を踏まえ、令和2年11月に都立動物園の目指す姿と取組の方向性を示した第2次都立動物園マスタープラン(以下、「マスタープラン」という)を策定しました。

マスタープランでは、その下位計画として、各園の取組の方向性や、具体的な内容を取りまとめた「各園基本方針」、「飼育展示計画」、「教育普及計画」を策定し、都立動物園の4つの目指す姿(魅せる・伝える・守る・極める)の実現に向けた取組を進めることとしています。

この度、マスタープラン 第4章「各園の目指す姿と取組の方向」を踏まえ、第2次計画期間(令和3～12年度)中の、大島公園動物園の下位計画を取りまとめ、「大島公園動物園 推進計画」を策定しました。今後、本推進計画の取組を着実に推進していくことで、大島公園動物園におけるマスタープランの目指す姿を実現するとともに、野生動物の保全と環境への理解を促し、人と動物がともに生きていくことのできる地球環境を守り、未来に引き継いでいきます。



マスタープランにおける下位計画(推進計画)の位置づけ ※マスタープラン p.17 抜粋

※ズーストック計画：平成30年10月策定。124種を対象に、希少種の保全や、環境学習の推進、生息域内保全への貢献を図る計画

## (2) 計画の見直しについて

本計画は、社会情勢や、国内外の動物管理計画などの変化を踏まえ、中間年度を目途に見直しを検討します。

## 2. 大島公園動物園について

### (1) 概要

大島公園動物園は、富士箱根伊豆国立公園内の集団施設地区に指定された都立大島公園に位置する動物園です。東京湾汽船(株)(現 東海汽船(株))により、昭和 10(1935)年に自然動物園として開設されました。その後、東京市に寄付され、整備拡張したうえで、昭和 13(1938)年 5 月 1 日に開園した「東京市立大島公園」の一部に位置付けられました。伊豆諸島唯一の動物園で、伊豆大島の主要な観光施設となっています。動物と身近にふれあえる動物園として島民にも親しまれています。

### 3. 各園基本方針

#### (1) 園の取組の方向

マスタープランで定めた大島公園動物園の目指す姿（マスタープラン p.126 参照）を踏まえ、園の今後の取組に対する考え方を「園の取組の方向」として以下のとおり定めました。

- 海と山に囲まれた自然環境や動物の特長を生かした島ならではの取組を進め、島民から愛され、来島者を惹きつける「しまの動物園」として魅力度を高めていきます。
- 島の貴重な生態系や自然環境保全への理解を促進するため、子どもたちの学ぶ場として積極的に環境学習に取り組みます。
- 他の都立動物園と連携して伊豆諸島や小笠原諸島希少種の域外保全に取り組むとともに、東京の島々の希少種の展示や情報発信を充実させていきます。
- 「島」をキーワードとして、大島公園動物園から、日本や世界の「島」にすむ生きものと、自然に関する情報発信や PR を強化していきます。

#### (2) 目指す姿ごとの方針

「園の取組の方向」に基づき、都立動物園の目指す姿（マスタープラン p.15 参照）ごとの視点から整理したより具体的な方針を、「目指す姿ごとの方針」として定めました。ハード面とソフト面の両方の視点を踏まえることで、目指す姿の効果的な実現を目指します。

#### 魅 せ る

- 島の自然をそのまま活かした展示や、「大島らしさ」を感じてもらえる企画など、島の動物園ならではの魅力を向上していきます。
- 既存の展示を活かしつつ、ダイナミックな動物の動きやエサを食べている様子など、生き生きとした動物の暮らしを間近に体感できる展示の実現をしていきます。
- 情報発信力の強化や、事業者や他のイベント等との連携などにより、島の観光拠点として来園者を呼び込む取組を強化していきます。

#### 伝 え る

- 島にすむ子どもたちには多様な動物の世界を、来島者へは島の自然の魅力を、それぞれ楽しみながら学んでもらえる場にしていきます。
- テーマ性のあるハンズオン展示や動物の展示とリンクした遊具などを検討し、体験型による効果的な解説に取り組んでいきます。

- マダガスカルやセーシェル、ハワイなど海外の島にすむ動物種の飼育展示を通して、大島から世界の環境に関心を抱くきっかけを提供していきます。
- 教育機関や隣接する公園・キャンプ場などと連携して、環境学習の機会を幅広く提供していきます。

## 守 る

---

- 島という立地・環境を生かし、大島と類似した生息環境に暮らす生物種の飼育繁殖といった都立動物園の域外保全活動や、他園で取り組む希少種の個体群維持のための受入れなどを行い、危険分散機能を担っていきます。
- 大島の歴史・文化にかかわりの深い動物や固有種など、大島の魅力を伝える展示を行い、その貴重な生態系に対する島内外の理解を深めていきます。
- 動物の生き生きした暮らしが実現できるよう、飼育動物への環境エンリッチメントの取組を推進していきます。

## 極 め る

---

- 専門機関や他の都立動物園との連携し、飼育繁殖等の技術向上を図り、伊豆諸島をはじめとした、島にすむ動物たちの保全を進めていきます。

## 4. 飼育展示計画

### (1) 飼育展示計画とは

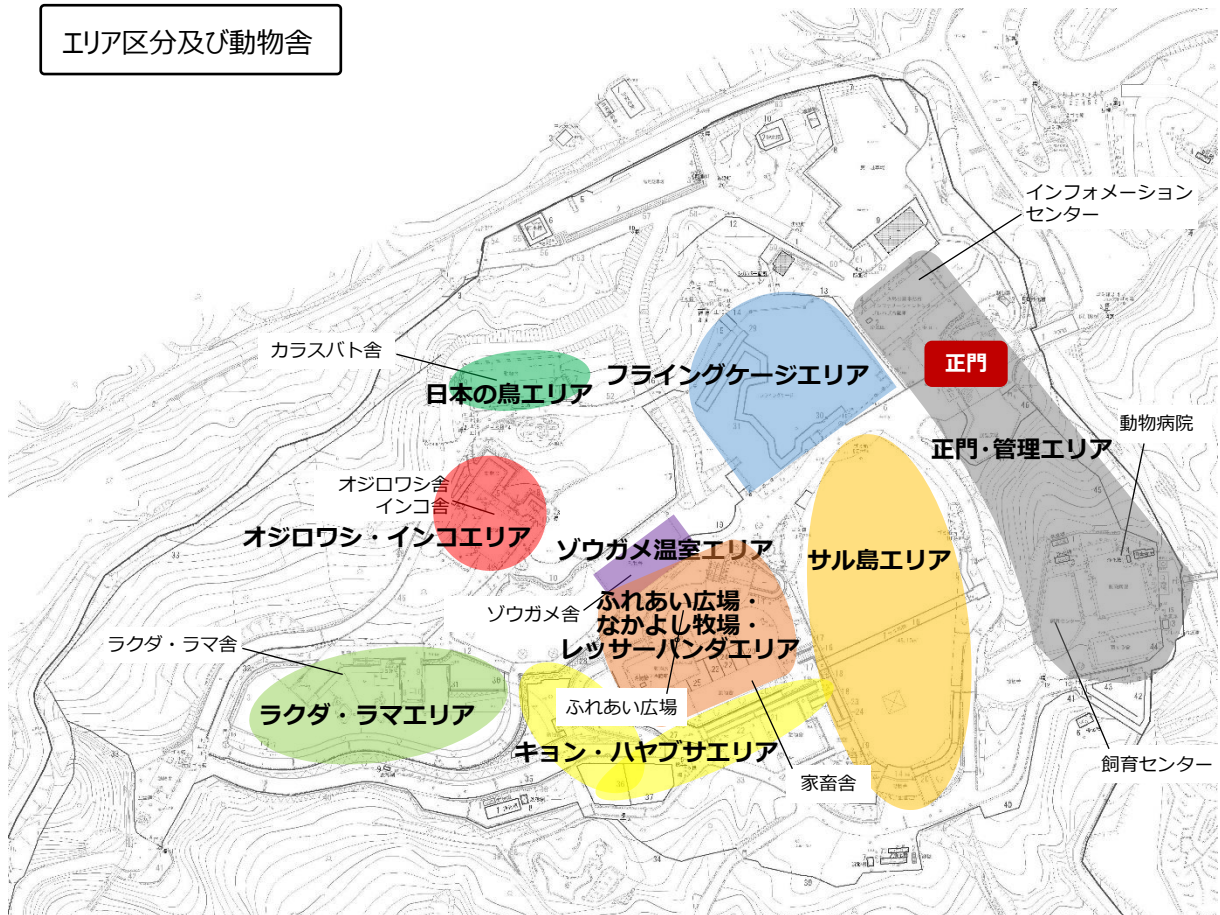
「目指す姿ごとの方針」のうち、主に「守る」、「極める」で定めた方針に基づき、「何のために、その種を飼育し、展示し、どのように活用し、何を伝えていくのか」を定めたものが飼育展示計画です。園のエリア区分や動物舎ごとに、展示コンセプトを設定し、それに基づいてどの種を飼育し、主にどのような取組を重点的に行っていくのかを記載しています。

飼育展示する動物を、その意義や必要性に応じて整理し、それに沿った取組を推進することで、限られた施設や資源を有効に活用し、持続可能な飼育展示や野生動物保全への貢献、教育普及効果の向上を目指します。

## (2) 飼育展示計画におけるエリア区分と飼育動物の分類

### 1) 飼育展示計画におけるエリア区分の設定

飼育展示計画におけるエリア区分は、マスタープランに記載されたエリア区分を基本として設定しています。



エリア区分
正門・管理エリア
フライングケージエリア
日本の鳥エリア
オジロワシ・インコエリア
ラクダ・ラマエリア
キョン・ハヤブサエリア
ゾウガメ温室エリア
ふれあい広場・なかよし牧場・レッサーパンダエリア
サル島エリア



## 2) 飼育動物の分類

エリア区分や動物舎ごとの展示コンセプトを踏まえ、全ての飼育動物について、長期的な視点で飼育動物ごとに保全の優先性、展示効果、教育普及効果、アニマルウェルフェア（動物福祉）<sup>※1</sup>（以下、「アニマルウェルフェア」という）の確保、搬出入の見通しといった観点から、その意義や必要性を検討し、以下の4つのカテゴリーに分類しました。

なお、野生での生息状況や飼育管理技術の向上など状況の変化により、必要に応じて飼育動物の分類を変更していきます。

- ・優先種：優先的に保全・繁殖に取り組む必要性、または展示・教育普及上の意義が高く、特に積極的に飼育展示に取り組むべき種
- ・維持種：単性飼育や必要に応じた繁殖など、それぞれの種の状況に即した管理を行いながら、長期的に継続して飼育展示を行う必要がある種
- ・検討種：新規導入を検討する種又は飼育展示の終了も含め検討を要する種
  - ①展示効果や保全、教育普及上の意義などが見込まれ、今後新たな導入について検討する種
  - ②搬出入の見通しや、アニマルウェルフェアの確保などの観点から、今後の継続的な飼育展示について終了することも含め検討する必要がある種
- ・断念種：搬出入の見通しや、アニマルウェルフェアの確保などの観点から今後、継続して個体を維持していくことが困難であり、順次飼育展示を終了<sup>※2</sup>していく種

※将来的な繁殖可能性や飼育スペースの確保、個体の年齢など様々な要因を考慮し、園での終生飼育や、他施設への搬出など、それぞれの個体に適した方法を検討した上で、それに応じた適切な時期に飼育展示を終了していきます。

---

※1 一般に「個体が幸せであると主観的に感じる状態」<sup>1</sup>とされているが、動物の主観的状态を理解するのは困難であるため、本計画では「その動物にとって、科学的に妥当な飼育管理」と定義する。

<sup>1</sup> Hosey, G., Melfi, V. and Pankhurst, S. (村田浩一, 楠田哲士監訳, 2011): 動物園学. 221. 文永堂出版, 東京

※2 将来的な繁殖可能性や飼育スペースの確保、個体の年齢など様々な要因を考慮し、園での終生飼育や、他施設への搬出など、それぞれの個体に適した方法を検討した上で、それに応じた適切な時期に飼育展示を終了していく。

### (3) 園の飼育展示コンセプト

大島公園動物園における飼育展示の考え方を以下のとおり「園の飼育展示コンセプト」として定めます。

---

- 島にすむ子どもたちには多様な動物の世界を、来島者へは島の自然の魅力を楽しみながら学べる展示を創ります。
  - 「島」をキーワードとして、大島公園動物園から、日本や世界の「島」にすむ生きものを飼育展示していきます。
  - 「しまの動物園」としての魅力を高めるため、島の自然をそのまま活かした展示や、環境エンリッチメントの推進により、動物の行動や暮らしを間近に観察できる展示を推進していきます。
  - 動物との距離を縮め、親しみを感じてもらう展示を実現し、伊豆諸島固有種や東京にすむ希少種の域外保全を見据えた飼育を進めていきます。
-

#### (4) エリア区分ごとの計画 ～展示コンセプト・飼育動物・重点的取組～

##### 【正門・管理エリア】

(主な施設)

インフォメーションセンター

##### ▶飼育展示コンセプト

- 大島内外の生物相の違いや、大島でしか見られない生物の情報、生態系ピラミッドの成り立ちなど、島民と来島者両方に、大島の自然に興味を持ってもらえるような展示を行う
- 島内でも目にすることが少ない大島固有種を、生体やはく製などで展示することで、実際に間近で観察できる機会を提供する

##### ▶主な飼育動物

優先種：テンジクネズミ、カノウサギ、シマヘビ(カラスヘビ)、ニホンカナヘビ、オカダトカゲ、アオダイショウ

維持種：アカネズミ

検討種：①ニホンイタチ、ハツカネズミ、シロマダラ

②なし

断念種：なし

##### ▶重点的取組

- アカネズミの維持と繁殖の推進
- 標本や企画展示による昆虫や魚類を含めた幅広い種の展示
- ニホンイタチや猛禽など、生態ピラミッドの上位に位置する肉食動物の展示



アカネズミ



シマヘビ (カラスヘビ)

## 【フライングケージエリア】

(主な施設)

フライングケージ

### ▶飼育展示コンセプト

- 自然をそのまま切り取ったような景観の中で、類似の環境に生息する国内外の動物を混合飼育し、歩きながら、様々な動物と出会える場を提供する
- 岩部のある斜面や林部、水辺など様々な環境を活かし、来園者に動物の生態を実感してもらうとともに、希少種の繁殖拠点や、危険分散の役割を担う

### ▶主な飼育動物

優先種：パルマワラビー、カラスバト、ハワイガン

維持種：カピバラ、インドクジャク、ヨーロッパフラミンゴ、マナヅル、ショウジョウトキ、オシドリほかカモ類

検討種：①トウホクノウサギ、オナガガモ、キンクロハジロ、オオバン

②なし

断念種：クロトキ、サカツラガン

### ▶重点的取組

- 林部、樹冠、流れなどバラエティーに富んだ飼育環境による鳥類の自然繁殖推進
- パルマワラビーの JAZA<sup>※1</sup>との連携による個体群管理の推進
- ショウジョウトキ・オシドリなどズーストック種の危険分散のための飼育
- ハワイガンのズーストック計画に基づいた繁殖率向上に向けた取組



カラスバト



ハワイガン

## 【日本の鳥エリア】

(主な施設)

カラスバト舎

### ▶飼育展示コンセプト

- 保護鳥を中心とした日本産鳥類をはじめ、カラスバトなど、東京の島にすむ動物の飼育繁殖にも取り組み、日本の動物の域外保全や、調査研究に貢献する

### ▶主な飼育動物

優先種：カラスバト

維持種：オリオオコウモリ、フクロウ、チョウゲンボウ、キジバト、コジュケイ

検討種：①アオバト、トラツグミ、ノスリ、トビ、オオコノハズク、ハイタカ、ミゾゴイ  
②オオセグロカモメ、ヒヨドリ

断念種：なし

### ▶重点的取組

- オガサワラオオコウモリの保全活動を見据えたオリオオコウモリの飼育推進
- カラスバト、ノスリなどズーストック種の遺伝子工学技術を活用した繁殖推進



ノスリ



オリオオコウモリ

## 【オジロワシ・インコエリア】

### （主な施設）

オジロワシ舎・インコ舎

#### ▶飼育展示コンセプト

- 大型猛禽類や、色鮮やかなインコ類を飼育し、島の子どもたちに世界の多様な動物の生態に触れる機会を提供する
- インコ舎の、高さのある空中デッキ式の通り抜けケージの特性を活かし、空中での採食シーンなど、来園者が動物のダイナミックな動きを、間近で見ることができる展示を行う

#### ▶主な飼育動物

優先種：オジロワシ、インカアジサシ

維持種：オオハナインコ、ルリコンゴウインコ

検討種：①キバタン、ワライカワセミ

②ニシムラサキエボシドリ、ニホンイシガメ

断念種：ヤマヒメコンゴウインコ

#### ▶重点的取組

- 天然記念物オジロワシの繁殖と域外保全への貢献
- 来園者がインコをより見やすく、かつ生態を理解しやすい展示への改善



オジロワシ



インコ舎



## 【ラクダ・ラマエリア】

### （主な施設）

ラクダ・ラマ舎

#### ▶飼育展示コンセプト

- 飛翔できない大型の走鳥類の展示により、島の子どもたちに、多様な世界の動物の生態に触れる機会を提供する
- ラクダは戦前から大島で観光飼育されてきた歴史的・文化的背景を持つ。そのエキゾチックな佇まいを、海を背景とした大島公園で展示するとともに、飼育園館が減少傾向にある同種の個体群維持にも貢献する
- 同じラクダ科である、ラクダとラマを比較展示するとともに、世界におけるラクダ科の分布や家畜利用を伝えていく

#### ▶主な飼育動物

優先種：フタコブラクダ、エミュー

維持種：ラマ

検討種：①なし

②なし

断念種：なし

#### ▶重点的取組

- 繁殖に向けた取組や、エンリッチメントの取組による長期にわたる個体群維持
- 施設改修に合わせ、周囲の自然と一体となった展示体験の実現
- エミューの、より見やすい展示への改善



フタコブラクダ



エミュー

## 【キョン・ハヤブサエリア】

### （主な施設）

キョン放飼場・ハヤブサ舎

#### ▶飼育展示コンセプト

- 外来種問題等の情報発信だけでなく、生息地におけるキョンの暮らしを伝え、本来の生態を伝える
- 伊豆諸島を繁殖地の一つとする、ハヤブサの生態を伝えるとともに、飼育下繁殖に取り組む
- 内地にすむ、特別天然記念物であるニホンカモシカを飼育展示し、島の子どもたちに、日本の生態系や、その保全について伝える機会を提供する

#### ▶主な飼育動物

優先種：キョン、ニホンカモシカ

維持種：ハヤブサ

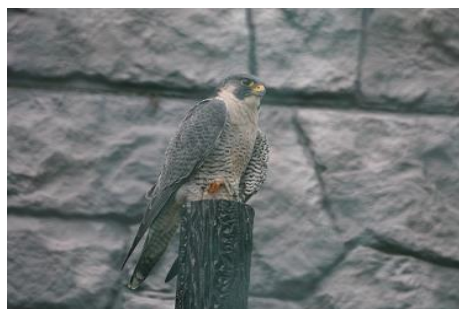
検討種：①なし

②なし

断念種：なし

#### ▶重点的取組

- オスのキョンの飼育展示を行い、解説の幅を広げる
- ハヤブサ・ニホンカモシカのズーストック計画に基づいた、繁殖成功に向けた取組推進
- ニホンカモシカの JAZA 個体群管理計画に基づいた取組の推進



ハヤブサ



ニホンカモシカ



## 【ゾウガメ温室エリア】

### (主な施設)

ゾウガメ舎

#### ▶飼育展示コンセプト

- 南洋の島にくらす世界最大のリクガメの展示により、島嶼の貴重な生態系と、その保全を伝える場とする
- 熱帯鳥類やオオコウモリなど、南方にくらす様々な種の展示により、島の子どもたちに、世界にくらす多様な生きものについて伝えていく
- 地上と樹上など、生息環境の異なる生物を混合飼育するなど、屋内展示施設ならではの展示手法を取り入れていく

#### ▶主な飼育動物

優先種：アルダブラゾウガメ

維持種：フタコビナマケモノ、オニオオハシ、オオハナインコ、ケヅメリクガメ

検討種：①オリイオオコウモリ、オガサワラオオコウモリ、マタコミツオビアルマジロ

②なし

断念種：ヒョウモンリクガメ、セマルハコガメ

#### ▶重点的取組

- ナマケモノの継続展示、JAZA との連携による個体群管理の推進
- オオコウモリなど樹上性動物の飼育に適した展示への改善
- ズーストック種であるアルダブラゾウガメの繁殖や、展示改善に向けた取組推進



アルダブラゾウガメ



フタコビナマケモノ

## 【ふれあい広場・なかよし牧場・レッサーパンダエリア】

### (主な施設)

家畜舎・レッサーパンダ舎

#### ▶飼育展示コンセプト

- 家畜の展示を通じて、ヒトと動物の多様な関係を伝えていく
- 小動物とのふれあい活動を通じて、動物の暖かさや手触りを直に感じることで、いきものへの理解を深める場とする
- 人気者のレッサーパンダの飼育により、多くの人を惹きつけながらも、その保全の重要性や、ユニークな生態を深く知ってもらう場とする

#### ▶主な飼育動物

優先種：シセンレッサーパンダ

維持種：ロバ、トカラヤギ

検討種：①ヒツジ（コリデール）

②ミニブタ

断念種：コールドック

#### ▶重点的取組

- 来園者が動物を間近に感じられ、安全にも配慮された動物と施設の維持管理
- ポストコロナに対応した、新たなふれあい活動にも対応できるスペースの創出
- シセンレッサーパンダの JAZA 個体群管理計画や、ズーストック計画に基づいた飼育管理と繁殖の推進
- シセンレッサーパンダの行動を引き出す、エンリッチメントの取組推進



なかよし牧場



シセンレッサーパンダ

## 【サル島エリア】

### （主な施設）

サル島

#### ▶飼育展示コンセプト

- かつて噴火で発生した、自然の溶岩からなる岩山を利用した施設で、岩場に生息するバーバリーシープ、島国マダガスカルに生息するワオキツネザルを、日本最大級の規模で展示し、背後に広がる太平洋とともに、ダイナミックな景観を提供する
- 吊り橋風のサル島橋から見る木登りの様子、親子ケージでの子育ての様子など、ワオキツネザルの生態を間近に観察する機会を提供し、動物への親しみを感じてもらう
- 広大な飼育環境のなかで、適切に群れを維持する技術を磨き、継承していくことで、群れで生活する動物の生態を伝えていく

#### ▶主な飼育動物

優先種：ワオキツネザル、バーバリーシープ

維持種：なし

検討種：①なし

②なし

断念種：なし

#### ▶重点的取組

- ワオキツネザルの健全な血統管理と個体群維持
- バーバリーシープの適切な血統更新による個体群管理
- アニマルウェルフェアを実現する環境エンリッチメントの推進に向けた、植栽管理や遊具の設置



ワオキツネザル



バーバリーシープ

本計画に該当する確認指標・具体的な確認項目及び目標値一覧

	確認指標	具体的な確認項目	10年目目標値 (令和12年度)
取組1	来園者の視点で常設展示や施設の魅力が向上した	展示改善の実施件数	—※1
	魅力的なプログラム、イベントが開催されている	ふれあいプログラムの実施回数	96回
取組2	多くの来園者が魅力を感じて訪れる施設になっている	年間来園者数	1万人
	多様な来園者を呼び込む取組がなされている	Twitter・Instagram投稿件数	12件
取組3	誰もが快適に観覧できる環境を提供している	施設改善件数	—※1
取組6	飼育職員による情報発信が強化されている	キーバーストックの件数（イベント実施時など）	—※1
取組7	東京都(伊豆諸島・小笠原諸島含む)に分布する野生動物に関する情報発信が強化されている	公園内での大島の野生動物の展示動物種数	6種
取組11	希少種の飼育管理を適正に行い、繁殖が推進されている	国内外血統登録対象の繁殖種数	5種※2
	多様な種を飼育し、飼育個体の情報を適正に管理している	国内外血統登録対象の飼育種数	6種
取組13	ズーストック種の繁殖が進んでいる	ズーストック計画で計画どおり繁殖に成功した種数	124種※2
	ズーストック計画に基づき対象種が適切に維持管理されている	ズーストック種における「飼育繁殖」「保全情報」「普及啓発」の分野において、適切に推進されている取組数	378※2
取組14	管理技術の向上により、動物を安全かつ健康的に飼育する環境が整っている	ハズバンダリートレーニングの実施種数	5種
	飼育動物の選択肢を増やし、正常な行動を引き出し、健康的に飼育する取組が進んでいる	展示施設におけるエンリッチメントの取組件数	10件
取組18	飼育繁殖に生物学技術が活用されている	DNA分析、ホルモン測定の実施種数	70種 (5園合計※3)
	動物園の個体群の維持に生物学技術が活用されている	配偶子の凍結保存及び使用件数	610件※2 (5園合計※3)
取組19	国内外の動物園・水族館、大学、研究機関とのネットワークが強化されている	動物園等のネットワークの会議の出席数	2回

※1 新たな取組や、過去の十分な実績値の記録がないなど、現時点で適切な目標値の設定が困難な項目。取組状況を検証した上で目標値を設定する。

※2 10年目までの累積件数

※3 建設局及び環境局所管の都立動物園・水族園

## 5. 教育普及計画

### (1) 教育普及計画とは

「目指す姿ごとの方針」の、主に「魅せる」、「伝える」で定めた方針に基づき、どのような環境学習や利用促進などの取組を行うかを定めています。園の特色に沿った園内プログラムや展示を行うために、飼育展示計画で定めた展示コンセプトや取組とも関連する内容とし、両計画を相互に連携するものとして位置付けています。

策定にあたっては、東京都大島支庁が平成 24 年 3 月に策定した大島公園（動物園）展示計画を踏まえた内容としています。

本計画により、全ての来園者が動物園・水族館に魅力を感じ、楽しみながら野生動物や保全について知ることができる取組の実施を目指します。

### (2) 教育普及テーマについて

教育普及計画では、動物園・水族館における教育普及の取組内容を、①～⑩の分類分け（以下、「教育普及テーマ」という）をし、これら教育普及テーマごとに、取組計画と主な実施項目を記載しています。

教育普及テーマ	
【いつでも楽しく学べる場】	① 定例の教育普及プログラムの強化
	② 動物と間近に接する体験（動物介在教育）の充実
	③ 展示での学びのサポート強化
【誰もが楽しめる場】	④ 集客力のある教育普及プログラムの強化
	⑤ 長期的で深い学び、また専門性の高い学びの充実
	⑥ 誰も取り残さない教育普及活動の推進
【動物の未来を考える場】	⑦ 環境学習プログラムの充実とズーストック種を活用した情報発信の強化
【学校での学びをサポートする場】	⑧ 学校向けの動物観察プログラム・キャリアプログラム・各種教材の充実
【多様なネットワークのハブとなる場】	⑨ ボランティアとの協働を推進、地域との連携強化
【情報発信の拠点となる場】	⑩ 多様な情報発信ツールを利用した効果的な情報発信

### (3) 園の教育普及コンセプト

大島公園動物園の教育普及計画で目指す方針を、以下のとおり「園の教育普及コンセプト」として定めます。

---

- 島の子どもたちが、生態系や自然環境保全への大切さに対する、理解を深めるための取組を行います。
  - 展示や解説を通して、来園者の希少動物の保護や、環境保全への興味・関心を醸成します。
  - 都内唯一の島しょに位置する動物園として、「島」をキーワードとした展示や情報発信の強化と、観やすく魅力ある施設を、より多くの来島者に PR します。
-



#### (4) 教育普及テーマごとの計画 ～取組計画・主な実施項目～

##### 【いつでも楽しく学べる場】

動物園・水族園を訪れる人々がいつでも楽しく学べる場であるために、園内で実施する定例の教育普及プログラムや、動物と間近に接する体験を提供する教育普及活動を強化します。また展示の一部である展示サイン、さらに企画展・特設展、セルフで楽しめるクイズシートなど、プログラム等に参加できない来園者にも常に新たな学びを提供します。

##### ① 定例の教育普及プログラムの強化

###### ▶取組計画

来園者がいつ来ても楽しく学べる機会を提供し、大島の動物や島の生態系の特徴などへの理解を深めてもらうため、展示や解説プログラムを充実させていきます。

###### ▶主な実施項目

- キーパーズトークの定例実施検討
- インフォメーションセンターの展示充実



キーパーズトーク（フタコブラクダ）



キーパーズトーク（カウサギ）

## ② 動物と間近に接する体験（動物介在教育）の充実

### ▶ 取組計画

エサを食べる姿など、ダイナミックな動物の本来の生態を間近で観察できる取組を行っていきます。また、実際に大きさや手触りを実感できる教育活動を行います。

### ▶ 主な実施項目

- ヘビの抜け殻や羽、ゾウガメの甲羅など実物を活用した解説
- エンリッチメントの取組推進
- エサの時間に合わせた生態解説

## ③ 展示での学びのサポート強化

### ▶ 取組計画

島民から観光客まで幅広い来園者に対し、大島動物公園の特徴である島の生態系や世界の島の動物種を分かりやすく伝えていくため、園内における解説パネル等の情報発信を充実させます。

### ▶ 主な実施項目

- インフォメーションセンターでの特別展示（世界カメの日、世界キツネザルの日等）
- 解説パネルの見直し・新規設置・拡充等検討



インフォメーションセンターでの特別展示  
（世界キツネザルの日）



インフォメーションセンターでの特別展示  
（大島の動物紹介）



### 【誰もが楽しめる場】

動物園・水族園には子どもから大人、障害がある方、訪日外国人など、多様な人々が訪れます。来園した誰もが楽しめる場所であるように、対象と狙いが異なる様々な教育普及プログラムを充実させていきます。また、こうした取組を通じ、より多くの方を呼び込んでいきます。

#### ④ 集客力のある教育普及プログラムの強化

##### ▶取組計画

大島の自然を活かしたサル島やフライングゲージでの展示を維持していくとともに、大島固有の生物の解説など、大島公園ならではの魅力を SNS や園内の展示から発信していきます。

##### ▶主な実施項目

- サル島、フライングゲージの活用
- インフォメーションセンターでの特別展示（世界カメの日、世界キツネザルの日等）
- イベントにあわせたキーパーズトークの実施



自然の溶岩を利用した放飼場（サル島）



フライングゲージ

⑤ 長期的で深い学び、また専門性の高い学びの充実

▶ 取組計画

世界の島の成り立ちの相違・島しょ化、地理的隔離による動物の生態的特徴を解説に取り入れていきます。また、動物を観察しその行動をまねることのできる展示環境を検討していきます。

▶ 主な実施項目

- 伊豆諸島の成り立ちと、そこに住む動物の生態的特徴を伝える解説内容の検討
- サル島の近くに岩山の遊具設置を検討

⑥ 誰も取り残さない教育普及活動の推進

対象となる取組なし



サル島とワオキツネザル

## 【動物の未来を考える場】

動物園・水族園は、地球上の動物とわたしたち人が共に生きる未来のために、学び、考え、行動する場です。その入口となる自然体験へつなげるフィールドプログラムを強化するとともに、希少野生動物の保全に貢献する、対象やテーマを工夫した多様な教育普及プログラムを充実させます。

### ⑦ 環境学習プログラムの充実とズーストック種を活用した情報発信の強化

#### ▶取組計画

世界の島の成り立ちの相違・島しょ化、地理的隔離による動物の生態的特徴を解説に取り入れていきます。また、世界の島の動物種の飼育を継続するとともに、それら動物の情報を発信していきます。

#### ▶主な実施項目

- インフォメーションセンターでの特別展示（世界カメの日、世界キツネザルの日等）
- 伊豆諸島の成り立ちとそこにすむ動物の生態的特徴を伝える効果的な発信方法の検討

## 【学校での学びをサポートする場】

学校教育との連携は、動物園・水族園の大切な取組の一つです。幼児から大学生まで年齢や学年に沿った体系的な教育普及プログラムを充実させ、学校教育との連携を強化します。

### ⑧ 学校向けの動物観察プログラム・キャリアプログラム・各種教材の充実

#### ▶取組計画

団体向けプログラムを実施し、動物園での学びをサポートします。また、教育機関等の訪問受け入れなど、環境学習の機会を広く提供していきます。

#### ▶主な実施項目

- 職場訪問、校外学習等の受け入れ



職場体験



校外学習の受け入れ

## 【多様なネットワークのハブとなる場】

ボランティアとの協働を推進するとともに、動物園・水族園が中心となって様々な教育・文化施設、または鉄道事業者など周辺の施設や企業との連携を強め、効果的な教育普及活動を推進します。

### ⑨ ボランティアとの協働を推進、地域との連携強化

ボランティアとの取組なし。地域との連携強化については、次項「多様な情報発信ツールを利用した効果的な情報発信」で記述する。

## 【情報発信の拠点となる場】

動物園・水族園は、動物や自然環境に関連する情報発信の拠点として、多様な情報発信ツールを活用し、効果的な情報発信を行います。

### ⑩ 多様な情報発信ツールを利用した効果的な情報発信

#### ▶ 取組計画

大島町や、島内の交通事業者、隣接する施設（海のふるさと村）等との連携により、イベント情報や動物のトピックを発信するほか、積極的な SNS の発信により、新規利用客を開拓していきます。

#### ▶ 主な実施項目

- イベント情報を町の広報誌に掲載
- 島内交通機関等への開園情報等の提供
- イベント情報や動物の様子を SNS で発信



大島町広報誌への動物情報の掲載



大島町 Twitter での情報発信

本計画に該当する確認指標・具体的な確認項目及び目標値一覧

	確認指標	具体的な確認項目	10年目標値 (令和12年度)
取組 1 (再掲)	来園者の視点で常設展示や施設の魅力が向上した	展示改善の実施件数	—※1
	魅力的なプログラム、イベントが開催されている	ふれあいプログラムの実施回数	96回
取組 2 (再掲)	多くの来園者が魅力を感じて訪れる施設になっている	年間来園者数	1万人
	多様な来園者を呼び込む取組がなされている	Twitter・Instagram投稿件数	12件
取組 3 (再掲)	誰もが快適に観覧できる環境を提供している	施設改善件数	—※1
取組 4	地域への動物関連情報の提供が行われている	地域の機関への情報提供件数	12件
取組 5	多くの方に積極的に都立動物園や野生動物の情報を発信している	大島支庁ホームページへのお知らせアップ件数	12件
取組 6 (再掲)	飼育職員による情報発信が強化されている	キーバーストックの件数（イベント実施時など）	—※1
取組 7 (再掲)	東京都(伊豆諸島・小笠原諸島含む)に分布する野生動物に関する情報発信が強化されている	公園内での大島の野生動物の展示動物種数	6種
取組 9 (再掲)	教育的な効果が高い団体指導プログラムを実施している	遠足等での団体指導の実施件数	2件
取組 14 (再掲)	管理技術の向上により、動物を安全かつ健康的に飼育する環境が整っている	ハズバンダリートレーニングの実施種数	5種
	飼育動物の選択肢を増やし、正常な行動を引き出し、健康的に飼育する取組が進んでいる	展示施設におけるエンリッチメントの取組件数	10件

※1 新たな取組や、過去の十分な実績値の記録がないなど、現時点で適切な目標値の設定が困難な項目。取組状況を検証した上で目標値を設定する。